

令和2年度「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：32005
学校名：新琴似北中学校

改訂のポイント		<p>○主体的な学び・深い学びを目指し、話し合い活動の充実と課題探求的な学習を推進する。</p> <p>○観点別・領域別の達成状況を把握し授業改善に役立てるために、前後期授業評価、WATを活用している。</p>		
項目名	項目内容	項目内容の具体		
目標	「学ぶ力」の育成に係る目指す子ども像	<p>☆基礎的・基本的な「知識」「技能」の習得</p> <p>☆言語活動の充実（「思考力」「判断力」「表現力」の高まり）</p>		
「学ぶ力」に関する成果や課題	学ぶ意欲	<p>【昨年度の具体的な取組】</p> <p>① 興味・関心を高める授業展開の工夫 ・授業のはじめに、確認テストや問いで復習の実施</p> <p>② 家庭学習課題を用いての基礎学力定着</p>	<p>【成果】</p> <p>⇒「わからないことは、自分で調べてはっきりさせようとしていると答えた生徒の割合が前期81.4%から82.7%と後期増えた。学習に対する意欲が高まってきた傾向と判断できる。</p> <p>⇒家庭学習の定着が見られ、基礎学力向上に貢献できた。</p>	<p>【課題】</p> <p>◇「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがよくある」肯定割合が依然として低いのが課題である。週末課題は定着してきた。</p>
	思考力・判断力・表現力等	<p>【昨年度の具体的な取組】</p> <p>話し合い活動を通して、さまざまな考えを受け入れること、理解を深めることを経験し、自分の考えをまとめる力の育成</p>	<p>【成果】</p> <p>⇒「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがよくある」の肯定割合は87.1%、「習ったことや知っていることを使って、自分で考えることが大事だと思う」の肯定割合が94%であった</p>	<p>【課題】</p> <p>◇「主体的な学び・深い学び」との関連性やさらに発展した学習につなげることを継続する。</p> <p>◇「授業中、自分の意見を進んで発言している」の否定割合が35.9%と他の質問の肯定割合と比較した場合、やや高い傾向である。</p>
	基礎的・基本的な知識及び技能	<p>【昨年度の具体的な取組】</p> <p>① 家庭学習課題</p> <p>② 授業のねらいを板書し意識化させる</p> <p>③ 放課後やテスト前に補習を実施する</p>	<p>【成果】</p> <p>⇒学習を継続する姿勢が育ってきている。</p> <p>⇒「授業中、自分で疑問やめあてをもって学習に取り組もうとしている」の肯定割合が72.5%</p>	<p>【課題】</p> <p>◇「新しく習ったことは、繰り返し練習をしている」の肯定割合が54.2%と少なく、家庭学習が充足しているとは言えない</p>
今年度の具体的な改善策（取組）	取組の最重点	<p>【取組の共有】</p> <p>主体的に学習に取り組む生徒の育成（話し合い活動を通して、さまざまな考え方を受け入れること、理解を深めることを経験し、自分の考えをまとめる力の育成を図る）</p>		
	A「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実	<p>○子どもが興味・関心を持ち、自ら疑問や課題を設定し、主体的に取り組む学習を取り入れた授業を工夫する。</p> <p>○「体験的な活動」、「学びあい」、「言語活動」等を通して、「主体的・対話的で深い学び」を目指す。</p>		
	B「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実	<p>○基礎的・基本的な知識や思考力の定着を図る授業の構成を目指す。</p> <p>○意味理解を伴った知識の習得と知識を使いこなす力を育て、分かる・できる喜びを実感できる授業を構成する。</p> <p>○少人数指導やTTの有効活用を通し、学習に対する成就感が高まる授業の工夫を図る。</p>		
検証の方法	各種調査や子どもの自己評価指標の活用	<p>○各教科等の評価規準に基づく学習状況評価結果の活用（日常テストや提出物等）</p> <p>○全国学力・学習状況調査の結果</p> <p>○札幌市全体の共通指標（子どもの自己評価）の活用</p> <p>○さっぽろっ子『学び』のススメの活用</p> <p>○OWATの活用（観点別評価・領域別の達成状況の分析等）</p>		